

## SNS上に存在する愚痴のメガデータ分析

伊藤いちこ\*・村野井均\*\*・芝田成輝\*\*\*

(2014年8月8日受理)

## Mega Data Analysis of Grumbles on Social Networking Service

Ichiko ITO\*, Hitoshi MURANOI\*\* and Naruki SHIBATA\*\*\*

(Received August 8, 2014)

### はじめに

愚痴は日常的に誰もが口にする。また、web上にも愚痴を書き込むための場が存在する。ストレスを感じる時、無意識のうちに愚痴をこぼしてしまう人も多いだろう。愚痴をこぼすということは、人間にとって当たり前の行為なのである。しかし、当たり前の行為であるにもかかわらず、愚痴とは具体的にいかなるものであるかを説明することはできない。弱音をほくことや愚痴の対象の悪口をいうことなど、人にとって愚痴の捉え方は様々である。

岩波国語辞典（第七版新版）を例にとれば、以下のように書かれている。

【愚痴】（今となっては）言ってもしかたがない事を言っては嘆くこと。「一をこぼす」

▷もと、理非の見分けがつかない愚かさのこと（p.399）

各種の辞典に共通する意味は、「言ってもしかたのないことをくどくど言う」ということである。心理学の辞書には載っておらず、論文検索サービス“CiNii”で2012-13年にわたって「愚痴」や「弱音」などの愚痴に関するキーワードで調べたが、愚痴の研究は以下に示す2人の研究しかなかった。

東欧文学の研究者である野中（2001）は、（1）愚痴は必ず聞き手を必要とすること。（2）愚痴をこぼす人は、聞き手に対して「私の愚痴を聞いてほしい、でも意見（異見）はしないでほしい」という特徴的な態度をとると述べている。愚痴をこぼす人が聞き手に求めているのは冷静な分析でも、公平無私な態度でも、評論家的コメントでもなく、聞いてくれること、うなずいてくれること、すなわち「自分のことを肯定してもらおう」ということにあるという。つまり野中は、愚痴を話し手が表出

---

\* 社会福祉法人ひだまり会障がい者自立支援事業所ディライトホーム（〒311-4163 水戸市加倉井町104；Mental Disabilities Independence Support Center 'Delight Home', Social Welfare Corporation 'Hidamari Kai', Mito 311-4163 Japan）

\*\* 茨城大学教育学部学校教育教室（〒310-8512 水戸市文京2-1-1；School Education, College of Education, Ibaraki University, Mito 310-8512 Japan）

\*\*\* 茨城大学大学院教育学研究科（〒310-8512 水戸市文京2-1-1；Major in School Education, Field of Psychology, Graduate School of Education, Ibaraki University, Mito 310-8512 Japan）

した弱さであると定義した。

また野中（2007）は、愚痴の話し手が聞き手に意見や反論をされないために、防御措置をとると述べた。「私」が愚痴の中で作ろうとするのは、明確なフォームを持った「他者にとっての私」であり、愚痴というジャンルに聞き手の存在は原理的に欠かせない。愚痴の話し手は、「他者にとっての私」を作ることで、「本当の私自身」は聞き手には理解できないものとする。そのために防護措置を行う。防御措置とは、聞き手に十分な情報を与えないことであり、もっとも多いのは相手のよく知らないことを話すことだとしている。これによって、聞き手が批判的な応答をしても「あなたは事情をよく知らないから…」と攻撃をかわすことができるという。

岡田（2004）は、野中の研究をもとにして臨床心理学の立場から愚痴の構造化を試みた。大学生31人（男性16人、女性15人、19～36歳）を対象とし、自由記述式の質問紙によって愚痴の定義や愚痴の働きについて尋ねた。記述データを、まずキーワードに、さらにカテゴリーにコード化した。カテゴリー内のキーワード数から考察を行った。岡田はその結果から、愚痴の条件を以下の6つにまとめた。

①聞き手の存在を必要とする。

－他者に対して話されない愚痴は、愚痴ではない。

②話し手、聞き手以外の第三者（人や物、社会現象）が話題とされる。

－聞き手に対する不満を述べることは愚痴ではない。

③聞き手に、愚痴を「ただ聞いてもらう」ことが、話し手が愚痴をこぼす、直接の目的である。

－聞き手には意見でなく、受容と承認を求められている。

④話し手は聞き手に、自身の持つ否定的感情を表出する。

－結果として、カタルシス効果が得られる。

⑤愚痴としての成立は、話し手－聞き手の親密な関係性に依存する。

－親密な関係でない他者には愚痴はこぼせない。

⑥安定した親密な関係性は、話し手の拘束から聞き手の主体を保護する

⑦愚痴としての成立は、話し手－聞き手－第三者の関係性に依存する。

－愚痴は三者構造を持ち、そのバランスによって成立する。

上記の結果より、岡田は愚痴の定義を、『聞き手に、ある関心事を話題として、直接的な問題解決を意図せずに、否定的な感情を中心として表出することを目的としたコミュニケーション』とした。否定的な感情とは「後悔や不満など」と述べている。

岡田は、受容やカタルシスという愚痴の機能について、そして愚痴をこぼすときの関係性、特に話し手と聞き手の相互拘束について述べている点で、愚痴の研究を広げたといえる。また、野中が話し手と聞き手の2者構造で考えていたのに対して、岡田は、話し手－聞き手－第三者（愚痴の対象）という、三者構造についての仮説を提起したといえる。しかし、愚痴そのものの研究ではなく、大学生の愚痴に対する意識や大学生が想定する効果の研究であった。そのため、三者構造もカウンセリングの中で、カウンセラーがクライアント（話し手）と愚痴の対象（第三者）の関係を理解するために、仕事のうえで生じる特殊な構造なのかもしれないのである。カウンセリングとは、愚痴をカウンセラー（聞き手）へ正確に伝えなければならない、三者構造が明確でなければならない特殊な場面な

のである。

先行研究である野村、岡田とも、愚痴そのものを分析しているわけではない。すなわち、野中と岡田が立てた愚痴の特徴や条件は、仮説に過ぎないのである。

また、両者とも話し手と聞き手の関係性への注目に偏っており、愚痴そのものの具体的内容について触れていないのである。愚痴について、野中は「弱さ」と表わし、岡田は「否定的感情」と表わしている。しかし、「弱さ」と「否定的感情」が、具体的にどのような内容なのかについて言及していない。三者構造を提起しても防御措置を想定しても確認してはいない。愚痴そのものを分析しなければ証明することはできないといえる。

なぜ、野中も岡田も、愚痴そのものの分析を行なうことができなかつたのだろうか。その理由は、野中と岡田が対象としている愚痴が、話し手と聞き手が対面した場面でこぼされる愚痴であることが考えられる。対面上の愚痴は、いつどこで愚痴をこぼすかわからない上、内容はプライベートなものである。実験者が依頼して話してもらえないものではない。対面上の愚痴は、収集が困難なのである。

しかし、現代では、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（以下 SNS と略）に、愚痴をこぼす場所（コミュニティやアカウント）が多数存在している。SNS の 1 つである mixi で「愚痴」というキーワードを用いて検索をすると、コミュニティが 507 件表示される（2013 年 10 月 6 日時点。以下同様）。その中の「愚痴り隊。」というコミュニティには 9177 人のメンバーが登録されている。コミュニティはより細分化され、「愚痴り場〜叫び〜」、「仕事の愚痴り場」、「夫婦の愚痴り場（吐き捨て OK）」などというトピックに分かれている。「愚痴」というキーワードを使わなくとも「本当は大丈夫じゃないのに…」（メンバー 28,388 人）、「なんか…もういいや。」（59,461 人）、「それ以上私を否定しないで下さい」（15,794 人）などのコミュニティが存在している。愚痴を吐く場所として、mixi を利用する人が多いということが分かる。

同じく SNS の 1 つである Twitter において「愚痴専用」というキーワードで検索を行うと、愚痴専用のアカウント（場所）が多数現れる。Twitter はタイムラインという時系列で表示されるため件数は不明である。Twitter には愚痴をこぼす場所だけでなく、本人が書いた愚痴を本人の代わりに表示してあげるアカウント（例、「愚痴ツイート（@guchitweet）」）や愚痴を代筆してくれるアカウント（例、「どっきのこ bot（@dokubot）」）などがある。代筆とは、ユーザーの愚痴をダイレクトメールで受け取り、代わって自身のタイムライン上に書いてあげるアカウントである。つまり、WEB 上には、愚痴をこぼすだけでなく、愚痴をこぼすことを支援するシステムが存在しているのである。

SNS 上の愚痴は、人が書いた愚痴である。特に mixi や Twitter では、愚痴を吐くという明確な目的を持って利用されている。いわば、純粋な愚痴といえる。更に、mixi の愚痴に関するコミュニティの中に立てられたトピックに書き込まれた愚痴や、Twitter の「愚痴専用」と記されたアカウントで吐かれる愚痴は、その web ページに行けばだれもがその愚痴を閲覧することができる。その上、文字として記録（Data Log、以下ログと表記）が残っている。そのため、愚痴のログの収集が効率よくできる。文字化された愚痴によって分析が可能となり、野中や岡田が研究で述べていた愚痴の特徴を検証することが可能となる。

SNS 上のログを利用することで、①「弱さ」、「否定的感情」など愚痴の具体的内容の分析と比率、

②話し手-聞き手-第三者という愚痴の三者構造の確認と出現率、③愚痴の防御措置の具体的方法の3つについて実証することができると考えられる。

## 目的

愚痴は多くの人間が行う行為であるにもかかわらず、プライベートな場で話されるため、実証的研究を行うことが困難であった。そのため、野中や岡田による研究でも愚痴という言葉の定義や性質が推測の範囲であり妥当性を確認することができなかった。「愚痴をこぼす」という言葉を誰もが気軽に使う一方で、実際にはその中身は具体的に明らかになっていないのである。現代はSNSという架空空間に愚痴が文字として残り、それを収集することでデータ処理できる時代である。本研究は、web上に残る文字化された愚痴の内容に注目し、数値化することで、分析を行っていく。

以下の3つの視点で検証する。

- 分析1 「弱さ」、「否定的感情」など愚痴の具体的内容の分析と比率
- 分析2 話し手-聞き手-第三者という愚痴の三者構造の確認と出現率
- 分析3 愚痴の防御措置の具体的方法

今回の分析によって実際の愚痴が野中（2001,2007）と岡田（2004）が示した愚痴の特徴や条件に合致するかどうかについて検証し、この検証を踏まえたうえで新たな愚痴の定義付けを行うことを目的とする。

## 分析1～3で用いる分析対象

今回の研究では、web上に残された、文字化された愚痴を扱う。代表的SNSであるmixi、Twitterにおいて以下の方法により愚痴ログを集めた。

mixiからは、mixi内に存在するコミュニティ「愚痴り隊。」内に立てられたトピック「愚痴グチ言うトピ（独り言編）その13」に投稿されたコメントから書き込みされた順に250ログを抽出した。「愚痴り隊。」は、「愚痴」というワードをコミュニティ検索にかけたところ、該当した中で最もメンバー数が多いコミュニティである。また、2013年10月2日の時点で、コミュニティ内に立てられたトピックで「仕事場の愚痴」「隣人・ご近所の愚痴」など愚痴の範囲が限られているトピックが多い中で、「愚痴グチ言うトピ（独り言編）その13」は対象を限定しておらず、最も広範囲的な愚痴を収集できると判断したため、分類の対象とした。

Twitterからは、純粋な愚痴の書き込みのみを収集するため、ユーザーが「愚痴を吐くという明確な目的のために使用しているアカウント」を選別するのが適切であると判断した。アカウント名またはプロフィール内に「愚痴専用」と明記されたアカウントを検索し、該当する13人のアカウントから書き込まれたログを1ツイート（tweet,140字以内の短文）毎に収集した。

手動で作業する限界を考え、mixiとTwitterから各250ログ抽出した。得られた合計500個のログによって、研究を行った。

今回対象としたmixi、Twitterにログを書き込んだユーザーは全てハンドルネーム（ネット上の

仮名)を用いており、身元を特定できないような仕様となっていた。

分析1～3は、分析方法が異なる上、愚痴の分類や例を示すために分析ごとに長くなる。したがって以下は、分析1～3ごとに述べる。

### 分析1 「弱さ」、「否定的感情」など愚痴の具体的内容の分析と比率

心理学を専攻する学生6名と心理学の教員1名によりKJ法を用いて500個のログからカテゴリーの抽出を行った。分類に迷うは6人の合議によって決定した。

#### 愚痴における「弱さ」「否定的感情」の具体的内容の検証

カテゴリー抽出を行ったところ、誹謗中傷、苛立ち、鼓舞、疑問、不安、体調、自己嫌悪、諦め、後悔、不満、その他の11個のカテゴリーに分類することができた。野中による「弱さ」に相当するものとして、不安、体調、自己嫌悪、疑問、諦めが考えられた。また、岡田による「否定的感情」に相当するものは後悔、不満であると考えられた。

誹謗中傷、苛立ち、鼓舞の3つのカテゴリーは、「弱さ」「否定的感情」のどちらともとれない新

表1 愚痴の分類と出現数

カテゴリー	誹謗中傷	苛立ち	鼓舞	不安	体調	自己嫌悪	疑問	諦め	不満	後悔	その他	合計
ログ数	246	11	27	38	23	22	19	11	52	17	34	500
分類	新出計 284			野中計 113				岡田計 69				

たなカテゴリーである。新出カテゴリーと名づける。表1に愚痴のカテゴリーと出現数を示す。

新出カテゴリーが284個と最も多く、56.8%を占めていた。野中の「弱さ」に対応すると考えられるものは113個、22.6%、岡田の「否定的感情」は69個、13.8%であった。野中、岡田が想定した愚痴はWEB上では36%しか出現しないという結果になった。両者が想定していた愚痴は、WEB上に存在する愚痴よりも範囲が狭かったと考えられる。

以下に各カテゴリーの特徴と例を示す。

#### 1. 野中の「弱さ」に該当すると考えられるカテゴリー

野中の「弱さ」として考えられる、「不安」「体調」「自己嫌悪」疑問「諦め」のカテゴリーについて述べる。これらのカテゴリーは、全体の22.6%を占めている。

「不安」のカテゴリーは38個で全体の7.6%であった。「不安」は、「泣く」「悲しい」「怖い」など、話し手自身の不安な感情を表現している愚痴である。話し手自身が置かれている状況に対しての逃避を望む表現（「いやだ」「無理」など）を含むものもある。例として以下のものがある。

・誰かたすけて泣きたいです…好きだったんです
・うつつうつつうつつうつつうつつうつつうつつうつつうつつうつつうつつ
・先が見えない 辛すぎ

#### 例) 不安のログ

話し手自身の不安な感情を表現するという点で、野中の「弱さ」に該当すると考えられる。愚痴の対象によって引き起こされる不安な感情を中心に表わされている。現在おかれている状況を嘆きながら、その状況から逃避することを望んでいるものも存在する。

例を見ると愚痴をこぼしているのが話し手（自分）と言うことはわかるが、対象（第三者）が不明で、聞き手も誰なのか明確でない。「誰かたすけて」の「誰か」は聞き手を指すと思われるが、誰を想定しているのか不明である。WEB上の愚痴は対面でこぼされる愚痴とは異なっている可能性がある。ログだけでは情報が足りず、聞き手は反応しようがないといえる。防御措置が施されていることがわかる。

「体調」のカテゴリーは23個で全体の4.6%であった。「体調」は、疲労や体の不調など、話し手自身の体調について述べている愚痴である。例として以下のものが存在する。

・最近胃がキリキリする
・なんか…。つかれた。
・喉いたい 風邪か何なんだ!?

#### 例) 体調のログ

話し手自身の思わしくない体調に対しての報告または嘆きであり、話し手自身が過酷な状態であるということを聞き手に伝える目的があると考えられる。自身の弱った姿の報告をするという点で、野中の「弱さ」に該当すると考えられる。自分について述べている。

「自己嫌悪」のカテゴリーは22個で全体の4.4%であった。「自己嫌悪」は話し手自身を卑下し、話し手自身の特徴や行動について否定する表現が含まれている愚痴である。例として以下のものがある。

・あー申し訳なさすぎてやばい
・びびってる自分やだ
・うでが太い。せっかく買った服。腕がピチピチだった。

#### 例) 自己嫌悪のログ

愚痴の対象が話し手自身に一致しており、「理想に当てはまらない自分」「理想の行動ができない自分」に対しての否定を行っている。話し手自身に関する事柄に対して否定を行い、現状から脱出できない姿を聞き手に表わしている。辛い現状にいる自分に対して嫌悪を抱くことから、野中のい



う「弱さ」に該当すると考えられる。自分について述べている。

「疑問」のカテゴリーは3.8%で全体の3.8%であった。「疑問」は、疑問形が含まれ、愚痴の対象または聞き手に対して何らかの問いかけを行っている愚痴である。例として以下のものがある。

・俺が何したって言うんだよ…畜生
・なんでそのまま嫌いになってくれなかったん？ねえ、なんで？？
・なんでや、60きってないやろ(´Д`)

#### 例) 疑問のログ

話し手自身にとって都合の悪い、愚痴の対象の行動または状況に対して、疑問を投げかけている。すなわち都合の悪いことに対するの嘆きともいえる。改善を望むわけでも、相手を攻撃するわけでもなく、ただ直面している不遇な状況に対して嘆くという点から、野中のいう「弱さ」であると考えられる。

「諦め」のカテゴリーは11個で全体の2.2%であった。「諦め」は、話し手自身が自身のおかれている状況または直面している事柄に対して諦めの意を表す表現が含まれている愚痴である。例として以下のものがある。

・なにもかも諦める
・ダブルスの大会とかどうでもいいんだけど
・もう不登校でいい

#### 例) 諦めのログ

現状に停滞することを表わしている。現状に留まる事しかできないという嘆きと、現状を変えることに対するの諦めを表わしている。現状から脱出できない自分自身を表わすという点で、野中がいう「弱さ」に該当すると考えられる。

## 2. 岡田の「否定的感情」に該当すると考えられるカテゴリー

岡田は「否定的感情」を「後悔」と「不満」と述べている。「否定的感情」にあたりと考えられるカテゴリーとして「不満」「後悔」が現れた。これらは全体の全体の13.8%を占めている。

「不満」のカテゴリーは52個で全体の10.4%である。「不満」は、「～したい」「～したくない」「～してほしい」といった、話し手自身の不満について表現している愚痴である。例として以下のものがある。

・金欲しい
・みんなとも遊びたくない
・部活やめたい

#### 例) 不満のログ

不満とは、満たされない事柄に対して、「それを満たしたい」ということであり、岡田が「否定

的感情」の例として挙げていた「不満」に該当する愚痴であると考えられる。話し手が現状で満たされていない不満について述べる、または話し手にとって不都合な事柄を拒否することを望む内容が表現されている。自分について述べている。

「後悔」のカテゴリーは17個で全体の3.4%である。「後悔」は、話し手自身が過去に行った行動や遭遇した出来事に対して、謝罪や反省の気持ちを表現している愚痴である。例として以下のものがある。

・せめて好きでしたぐらい言いたかった…言いたかったのに
・やる気ない人帰れって言われたとき帰れば良かったわ
・人生やり直したい…

#### 例) 後悔のログ

岡田が「否定的感情」の例として挙げていたカテゴリーである。時制が基本的に過去形であり、話し手自身が自分を責める表現が多い。第三者が想定できるログもある。

岡田が例として挙げていた「不満」「後悔」について確認することができた。また、その具体的な内容についても明らかになった。

岡田の言う「不満」とは、1、現状で満たされていない欲求、2、現在直面している、話し手自身にとって不都合な事柄に対して拒否を示すという2つであった。「後悔」には、1、過去の出来事や自身が行った行動に対する否定、2、愚痴の対象に対する謝罪という2パターンが存在していた。

### 3. 新出カテゴリー

新出カテゴリーは284個ともっとも多く、56.8%を占めていた。WEB上の愚痴は、野中や岡田が想定していないものが半数以上を占めているのである。このカテゴリーには「誹謗中傷」「苛立ち」「鼓舞」の3つがある。

「誹謗中傷」のカテゴリーに入ったログは、246個で全体の49.2%であった。ある人物または事象に対して非難し、中傷する表現が含まれている愚痴である。例を以下に示す。

・思い上がりが激しい勘違い野郎は死ねばいいとおもうよ(^_^)
・おまえなんか家族じゃない。大嫌い。バカしか言えねえくそに用はない。
・あーもうマジ植松きめーな

#### 例) 誹謗中傷のログ

野中の「弱さ」や岡田の「否定的感情」としては考え難いカテゴリーである。「愚痴の対象へ向けた話し手の攻撃性」が表現されている。対象が明確かあるいは想定することができるが、防御措置も施されている。対象としたログ全体の約半数を占める最も大きなカテゴリーであり、話し手自身の「攻撃性」が愚痴の内容において大きな要素となっていることが分かる。

同様に野中・岡田の説に当てはまらないものとして「苛立ち」のカテゴリーが現れた。「苛立ち」



の категорияは 11 個で全体の 2.2%であった。「苛立ち」は誹謗中傷のように何かを中傷する表現は無いが、「イライラ」「ムカつく」など、話し手自身の苛立ちの感情を主に表現している愚痴である。例は以下のものがある。

・あーなんだよ、イライラするなあ…
・イライライライラ
・もうムカついて寝れそうにない

#### 例) 苛立ちのログ

野中の「弱さ」と岡田の「否定的感情」とは異なる新出の categoriaであり、「話し手自身の持つ攻撃的感情」が表現されている。誹謗中傷と比較して、話し手自身の感情が中心に語られている一方、愚痴の対象についての表現は希少である。そのため、自身の攻撃的感情を表出することが特徴である愚痴だと考えられる。

「鼓舞」の categoriaは 27 個で全体の 5.4%であった。「鼓舞」は話し手自身が、話し手自身を励まそうと、前向きな言葉を述べている愚痴である。自身の置かれている状況から脱しようとする決意や、話し手にとって救いとなる周囲の環境に感謝を述べる表現が多くみられる。例として以下のものがある。

・バイトのたびにへこむなあ(T_T) はあ、がんばろう…
・苦手、なら我慢できる。笑顔でいられる
・頑張っとな、じゃなくて頑張ろうな。
よし。
大好きな人だから、心から大切な人だから、

#### 例) 鼓舞のログ

これも野中の「弱さ」と岡田の「否定的感情」に当てはまらない新出の categoriaである。分類された categoriaの中で唯一話し手自身の前向きな姿勢を表現している。すなわち、愚痴は「弱さ」「否定的感情」の表出のみではなく、話し手自身が、その状況を打破しようとする意気込みや決意を表出することで、自分自身を奮い立たせる場としても成り立つことが考えられる。愚痴を吐くことでカタルシスが得られ、立ち直るのであれば愚痴の機能の一つと考えてもよいであろう。愚痴の概念を変えざるを得ない categoriaといえよう。

#### 4. その他

分類するのが困難である愚痴も存在した。文が体をなさず、意味が理解できないもの、また各 categoriaの要素を混合しており、判別が困難であるものはその他として扱った。その他の cate

ゴリーに含まれる愚痴のログ数は 34 個（6.8%）であった。

#### 分析1のまとめ

野中・岡田が愚痴の内容として挙げていた「弱さ」や「否定的感情」に当てはまる愚痴は存在していた。しかし、36%を占めているに過ぎなかった。

今回初めて見つけられた新出カテゴリーが 284 個と最も多く、56.8%を占めていた。「誹謗中傷」「苛立ち」のように話し手の攻撃性を表す内容と、「鼓舞」のように話し手自身が自らを奮い立たせる内容が存在するということが分かった。WEB上の愚痴は、野中・岡田が想定している愚痴とは異なるのかもしれない。しかし、これらのカテゴリーはweb上で愚痴として扱われている。また、対象が明記されているもの、不明なもの、書かれていないものがあり、3者構造が成り立っていないといえる。

#### 分析2 話し手－聞き手－第三者という愚痴の三者構造の確認と出現率

岡田は、話し手－聞き手－第三者という愚痴の三者構造を提起している。岡田はカウンセリング場面を想定しているが、現実の愚痴は「言ってもしかたのないことをくどくど言う」ことであり、常に三者構造をしているとは限らない。また、野中の言う防御措置も働き愚痴の対象（第三者）の情報が欠けることが考えられる。WEB上の愚痴の三者構造の確認と欠ける場合の特徴を分析する。

愚痴は、話し手がいなければ成立しない。したがって「話し手」「聞き手」「第三者」の組み合わせを考慮すると、以下のような3種類の構造が考えられる。

##### 1. 三者構造（話し手－聞き手－第三者）

話し手と第三者（愚痴の対象）が異なり、状況や理由、経緯について説明しているもの

##### 2. 二者構造（話し手－第三者）

話し手と第三者（愚痴の対象）が異なり、かつ話し手のメッセージであるもの。メッセージと判断するには、「口語で語りかける表現」が含まれているもの、とする。具体的には他者への誹謗中傷である。

##### 3. 二者構造（話し手－聞き手）

話し手と第三者（愚痴の対象）が一致し、状況や理由、経緯について説明しているもの。または話し手自身の感情や思考、状況についてのみ説明しているもの。具体的には自分の話をし続けることである。

3種類の構造が、見られるかどうかを検討するため、話し手－聞き手－第三者の要素に注目して500ログの分類を行った。

#### 愚痴の三者構造についての検証

岡田のいう三者構造が成り立っているログは193個で、全体の38.6%と少なかった。話し手－第三者の二者構造に該当するログは165個（33.0%）であった。話し手－聞き手の二者構造に該当するログは31個（6.2%）存在することが判明した。話し手がひたすら自身について聞き手に語るというスタイルの二者構造である。判別が不可能であった愚痴は111個（22.2%）であった。

判別不可は文章が非常に短く、聞き手・第三者が書かれていないログである。

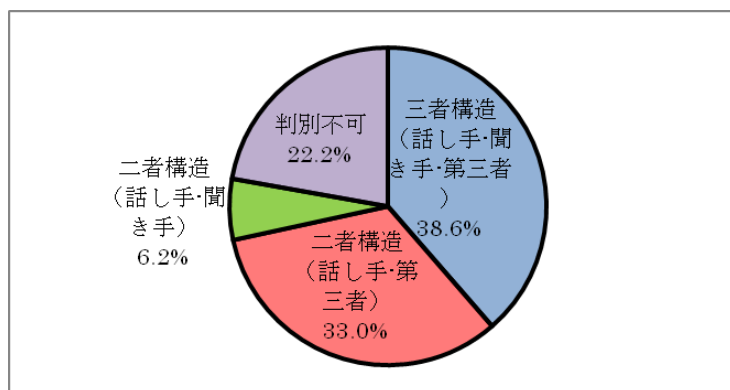


図1 愚痴の三者構造の割合

図1はそれぞれの構造の割合を円グラフで表わしたものである。

よって、話し手-第三者の二者構造と話し手-聞き手の二者構造を合わせると、39.2%に及ぶ。すなわち、岡田が述べていた三者構造よりも、二者構造の方が多いことが分かった。岡田の述べていた三者構造は、愚痴の構造の一部でしかないと考えられる。

分析1で用いた愚痴のカテゴリーごとに構造の特徴が見られるか確認するために構造の出現数

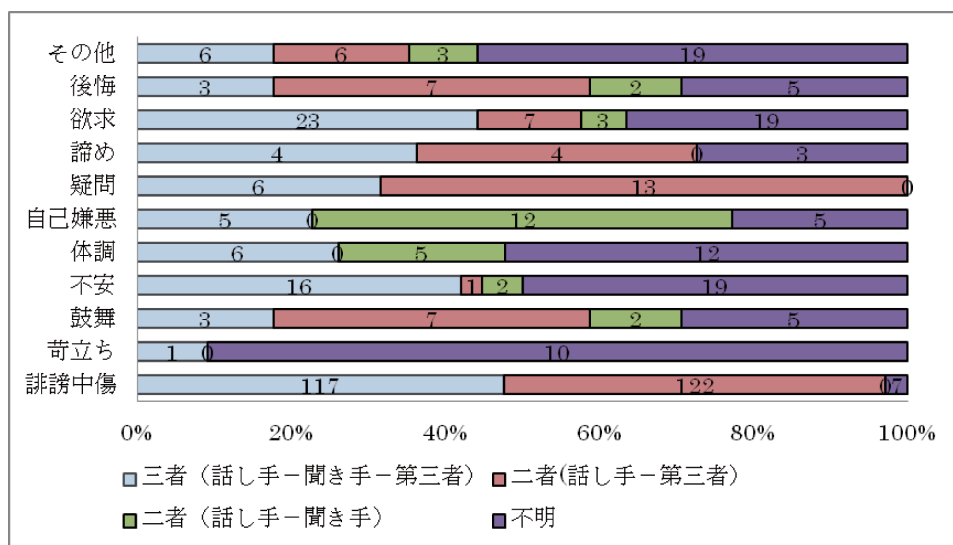


図2 各カテゴリーにおける構造の出現数の比較

を比較した (図2)。

すべてのカテゴリーにおいて、三者構造でないログの割合が多い。三者構造の割合が最も大き

い誹謗中傷のカテゴリーでも、三者構造のログの割合は47.5%と半数以下の値を示している。

(1) 話し手-第三者の二者構造が多いカテゴリー

「誹謗中傷」、「鼓舞」、「疑問」、「後悔」のカテゴリーでは、話し手-聞き手-第三者の三者構造よりも、話し手-第三者の二者構造の出現数が多かった。「諦め」のカテゴリーは、話し手-聞き手-第三者の三者構造と話し手-第三者の二者構造の出現数は同数である。よって、これらのカテゴリーは、状況の説明をするよりも、第三者に対する自身の持つ感情や思いなどを語るカテゴリーと考えられる。

(2) 話し手-聞き手の二者構造が多いカテゴリー

「自己嫌悪」のカテゴリーでは、話し手-聞き手の二者構造の出現数が最も高い。話し手-聞き手の二者構造は、愚痴の対象が話し手自身である。よって「自己嫌悪」の愚痴は、自分自身の情報を聞き手に語り続ける、自己開示と考えられる語りが行われていると推測できる。

(3) 構造が不明のログについて

全体的に構造が不明のものが多かったが、これは愚痴の文章が非常に短く、判別できなかったためである。特に「苛立ち」のカテゴリーでは、ほとんどが「イライラ」といった文章であった。不明が多いカテゴリーに関しては、野中のいう防御措置が関連していると考えられる。

### 分析2のまとめ

全てのカテゴリーにおいて、三者構造のみではないことが分かった。Web上の愚痴は、話し手-第三者の二者構造、または話し手-聞き手の二者構造によって成り立つものが多かった。このことから、愚痴の内容によって、愚痴の構造は変化するということが考えられる。

### 分析3 愚痴の防御措置の具体的方法

野中によれば、防御措置とは愚痴の対象を明確にしないなど「聞き手に十分な情報を与えないこと」である。したがって、文中の情報には欠落があると考えられる。情報の欠落を見るために、文の構成要素が分析対象のログのどの部分で欠けているかを確かめた。「新編 新しい国語1」(三角, 2011)に記載されている、学校文法における文の成分を参考にし、愚痴の文章(または文)の構成要素を表2に記したものとする。ログの文章を表2に示した構成要素に分け、それぞれ欠

表2 愚痴の文章(または文)の構成要素

①話し手の情報

(1) 主部(話し手が主語にくるかどうか)

※日本語は主語を省略して描かれることが多いので、主観的に愚痴の内容の主部が話し手だと判断できるものとする。

(2) 述部(状態、行動などを表わす部分)

(3) 修飾部(述部に情報を加える部分)

②愚痴の対象の情報

- ・接続(理由)部(愚痴の対象の説明部分)

(4) 愚痴対象の主部（愚痴の対象はだれか）

※人物について、固有名詞、役職名、家族名称、その時の状況や話し手との関係性が説明されているものとする。代名詞表記、イニシャル表記は不可。

(5) いつ（時期や時間）

(6) どこで（場所）

(7) 何を

(8) どれくらい、どのように（程度、手段）

(9) 愚痴対象の述部（愚痴の対象の行動や状態）

落しているかどうかを調べた。

#### ① 話し手の情報の構成要素

(1) 野中によれば主部は、必ず「私」に該当するという。そのため、主部が「私」になるかどうかを検討する必要がある。しかし、日本語では主語を省略することが多いため、単に「私」という単語が含まれているかどうかだけでは判断することができない。そのため、愚痴の内容を見て、主語が「私」と判断できる場合は話し手が主部にあたるとした。

(2) 述部は「(私は) イライラした」「怒った」「～をした」など、話し手の状態や行動に該当する部分である。

(3) 修飾部は、述部で表わされた状態や行動に詳細な情報を加える部分である。

#### ② 愚痴対象の情報の構成要素

ここは愚痴に至る理由を述べる部分であると考えられる。そのため、愚痴の対象が「だれ」であり、「いつ」「どこで」「何を」「どのように」「何をしたか」と5W1Hを交えた事細かな状況説明を行っているかどうかを検討する。5W1Hの「なぜ」について考えないのは、愚痴の対象の情報はあくまで話し手が語る部分であり、愚痴の対象の状態や行動についての理由を話し手が把握し、説明するのは困難ではないかと推測したからである。

すなわち、

・「『話し手が』・『どのように/どれほど/どうして』・『どうした/どうだった』」

・「『愚痴の対象が』・『いつ』・『どこで』・『何を』・『どのように』・『何をした』」

という構成によって得られる情報を、愚痴の詳細な内容を記述する要素とする。

ただし、(4) 愚痴対象の主部について、代名詞やイニシャル表現であるものは愚痴対象の名称を操作しているものとみなす。しかし、「町で偶然遭遇した人」など、話し手が愚痴の対象の名前または名称を知らない場合がある。以下の例のような愚痴は、状況または話し手との関係性を説明しており、愚痴の対象について特定できると判断した。そのため、愚痴の対象を表わす固有名詞がなくとも、以下の例のように愚痴の対象を特定できるような情報を明記している場合は、(4) 愚痴の対象の主部が書かれているものと判断した。

以下の例では、愚痴の対象は「隣の席の人」「反対隣」である。「人」という一般名詞を、「隣の席」、「反対隣」という、話し手との位置関係を説明しており、相手が特定できると判断する。

塾の自習室。隣の席の人はいびきかいて寝てるし、反対隣はずっとしゃべってるしマジなんなの？  
むかつ（怒り）  
周りの迷惑考えてよ、脳みそないの？

例) 愚痴対象の主部が書かれていると判断できるもの

分析は、ゼミ生5名と心理学の教員1名、2人一組でチームを組み、ログに表2に示した(1)～(9)の情報が欠けているかどうか、判断した。

### 愚痴の防御措置の具体的方法についての検証

#### ① 話し手の情報について

(1) 主部が、話し手であると主観的に判断することが出来なかったログは8個(1.6%)、(2) 話し手の述部が欠けていたログは135個(27.0%)、(3) 述部に情報を与える修飾部が欠けてい

表3 話し手の情報における欠落があるログの数とその割合

要素	話し手の主部	話し手の述部	修飾部
欠損があるログ数	8	135	191
欠損の割合	1.6%	27.0%	38.2%

たログは191個(38.2%)であった。結果を表3に示す。

(1) 話し手の主部が欠けている、すなわち愚痴の主人公が話し手かどうかを判断できないログが全体の1.6%と著しく少ないという結果から、野中による「愚痴の主人公はいつでも「私(話し手)」である」という説を支持することが出来る。また、(2) 話し手の述部と(3) 修飾部を比較して、(4) 修飾部の方が欠けているログが多い。このことから、話し手は自身の行動や考えを述べても、それに対して詳細な情報を付け加えない場合があるということがわかる。

#### ② 愚痴対象の情報について

(4) 愚痴対象の主部が欠けているログは377個(75.5%)、(5)「いつ」(時期や時間)が欠けていたログは441個(88.2%)、(6)「どこで」(場所)が欠けていたログは448個(89.9%)、(7)「何を」(対象)が欠けていたログは359個(71.8%)、(8)「どれほど」「どのように」(程度や手段)が欠けていたログは398個(79.6%)、(9) 愚痴対象の述部が欠けていたログは277個(55.4%)

表4 愚痴対象の情報における欠落があるログの数とその割合

要素	(4)愚痴対象の主部	(5)時間・時期 (when)	(6)場所 (where)	(7)(対象) (what)	(8)程度・手段 (how)	(9)愚痴対象の述部
欠損があるログ数	377	441	448	359	398	277
欠損の割合	75.4%	88.2%	89.6%	71.8%	79.6%	55.4%

であった。結果を表4に示す。



欠けているログが一番少なかった(9)愚痴対象の述部でも、55.4%も欠けている。これは(2)話し手の述部の欠落の割合が27.0%であったのと比較すると、倍近く欠けていることが分かる。すなわち、愚痴対象の情報は総じて書かれにくいということが分かる。(5)時間・時期を表わす構成要素、(6)場所を表わす構成要素は9割近くのログで欠落している。

特に(4)愚痴対象の主部が欠けているログが75.4%も存在し、(9)愚痴対象の述部が欠けているログが55.4%も存在している。愚痴対象の主部が欠けている文は、そもそも愚痴の対象が誰(何)であるのかが判断できない。また、愚痴対象の述部が欠けている文は、愚痴の対象が何をしたのかも判断できない。すなわち、読み手(=聞き手)に愚痴対象に関する情報が伝わらない文となっているのである。

### 分析3のまとめ

愚痴対象に関する文の構成要素が欠けているということは、愚痴を目にした人に愚痴対象に関する情報がほとんど理解できないということである。そのため、愚痴のログを読む人は、状況が理解できず、意見や反論をすることが非常に困難である。

愚痴の対象の情報における構成要素が多く欠けているという結果から、野中のいう防御措置の説が支持された。

## 考 察

今回、SNS上に吐かれた愚痴の分析によって、「愚痴の内容」「愚痴の構造」「防御措置」について検証することができた。

### 1. 愚痴の内容

分析1において愚痴の内容は、「誹謗中傷」「苛立ち」「鼓舞」「疑問」「不安」「体調」「自己嫌悪」「諦め」「後悔」「不満」「その他」の11個のカテゴリーに分類することができた。先行研究で野中が述べていた「弱さ」について、その具体的内容は「疑問」「不安」「体調」「自己嫌悪」「諦め」のカテゴリーでみられるような、話し手自身の負の側面を表出するものであると考えられる。また、岡田の述べた「否定的感情」についても、岡田が例として挙げている「不満」「後悔」が確認できた。また、新たに判明した「誹謗中傷」「苛立ち」のように、話し手の攻撃性を表わす内容の愚痴、「鼓舞」のように、話し手自身を励ます愚痴が存在することがわかった。今回明らかになった愚痴の内容から、愚痴には以下の3つの働きがあると考察できる。

- ① 「自分自身の弱さや否定的感情を表出する」
- ② 「愚痴の対象へ向けた攻撃性を表出する」
- ③ 「自分自身への励ましの手段」

辞書的には、愚痴を「言ってもしかたのないことをくどくど言う」となっていたが、実は「言っても仕方のないこと」ではなく、自分自身の内奥にある感情を発散させる、または自分自身を励ますといった働きが存在するのである。

## 2. 愚痴の構造

愚痴の構造が必ずしも「話し手－聞き手－第三者」の三者構造によらないということも明らかになった。今回分析の対象とした web 上の愚痴では、「話し手－第三者」の二者構造といった、聞き手の存在を無視しても成り立つ構造があることが分かった。また、「話し手－聞き手」の二者構造という、愚痴の対象が話し手自身であり、話し手が聞き手に対して自己開示を行う構造も存在した。これらの構造は、後述する web 上の特性によっても考えられる。また、愚痴の内容によってそれぞれの構造の割合が異なっていることから、愚痴の構造は、基本的に「話し手」「聞き手」「第三者」によって成立するが、その形は、愚痴がこぼされる場面や内容によって変化すると考えられる。

## 3. 防御措置

野中が述べていた、防御措置についても検討することができた。野中が述べた防御措置は、愚痴の話し手が、聞き手から意見を返されたり、批判を述べられたりするのを防ぐための行為である。愚痴の内容の情報をわざと欠落させることによって、聞き手の意見や反論の材料を減らすのである。今回の研究によって、防御措置の具体的な方法が明らかになった。

愚痴は、「話し手」の情報と「愚痴対象」の情報が存在する。話し手の情報において、話し手の主部が読み取れない愚痴は、全体の 1.6% であることから、愚痴の主人公は話し手自身であることが読み取れる。しかし、話し手の主部に対して話し手の述部は全体の 27.0% に及んでいた。本来、主部は省略されることがあっても、述部が省略されてしまえば、聞き手は話を理解することができない。愚痴における話し手は、自身の存在の主張に重点を置く。そのため、自身の行動や状態に対して、聞き手からの反論を防ぐためにわざと述部に当たる部分を欠けさせるといった防御措置をとると考えられる。

一方、愚痴対象に関する情報では、全ての要素において欠落数が多くみられた。特に愚痴対象の主部が欠けているログが 75.4% も存在していた。そもそも愚痴の対象が「誰（何）」であるのか判別できないログが 75.4% も存在することは、話し手が聞き手に対して愚痴に至る状況を説明する前提が崩れている。また、愚痴の述部が欠けている愚痴も 55.4% も存在していた。愚痴対象が「何をしたのか」が分からない愚痴も、聞き手は理解することができない。このことから愚痴対象に関する情報は、主部も述部も欠落し、そもそも文として成り立っていないものがほとんどであることが分かる。すなわち、愚痴対象に関する情報を欠けさせる防御措置であると考えられる。

また、話し手の情報が愚痴対象の情報に比べ、欠落の数値が総じて小さいことから、愚痴は話し手を中心とする語りであると考えられる。すなわち、愚痴の話し手は、愚痴を通して自分自身を聞き手に語ることを目的としているのである。そのため、愚痴対象に関する情報よりも、話し手の情報、特に話し手の存在の主張を中心とした語りであると考察することができる。

## 4. 今回の分析によって考えられる愚痴の定義と特徴

今回の分析によって得られた結果から、愚痴の特徴は以下のものと考えられる。

- ・「自分自身の弱さや否定的感情を表出する」…「疑問」、「不安」、「体調」、「自己嫌悪」「諦め」、「不満」、「後悔」
- ・「愚痴の対象へ向けた攻撃性を表出する」…「誹謗中傷」「苛立ち」
- ・「自分自身への励ましの手段」…「鼓舞」

- (1) 具体的な内容は、次のカテゴリーに該当する。
  - (2) 愚痴の構造は「話し手」「聞き手」「第三者」の存在によって構成されるが、愚痴がこぼされる場面や内容によって構造は変化する。
  - (3) 愚痴の話し手は、聞き手から意見や反論を受けないように、愚痴の情報を欠けさせる、防御措置を行う。この防御措置は、「話し手」の情報よりも「愚痴の対象」の情報で行われる。特に時間や場所といった、愚痴のきっかけとなる場面が判明できる情報で顕著に欠けている様を確認できる。
  - (4) 愚痴は、話し手自身の情報を中心とする。愚痴の主人公は常に話し手であり、話し手は愚痴を通して自分自身を表出する。
- 今回の分析によって得られた愚痴の特徴を考慮し、愚痴の定義を以下のように定める。

『愚痴は、自分自身の内奥にある感情を発散させる、または自分自身を励ますために行う、聞き手あるいは愚痴の対象へ向けた語りである』

## 5. WEB上の愚痴と対面して行われる愚痴

今回の研究ではWEB上の愚痴を分析した。そのため、愚痴の内容や構造、防御措置を研究することができた。「鼓舞」というカテゴリーが愚痴の範囲に入っており、愚痴をこぼすことでもたらされる機能（カタルシス、自己回復）を示す可能性が提起された。また、二者構造が多いことも示された。実は書かれていないだけで三者構造が成立している可能性もあるが、ログには第三者を誹謗中傷するだけのものや自分を語り続けるものが多かった。WEB上の愚痴は「こぼす」ではなく、ネット用語である「吐く」がふさわしかった。聞き手を想定していないかのようなログであった。WEB上の聞き手とは何か考える必要がある。WEB上の聞き手とは、世界中の人なのか、それとも鏡の中の自分なのだろうか。野中は、話し手は愚痴の中で「他者にとっての私」を作ると述べているが、WEB上では「私にとっての私」を作っているかのような意味では二者構造ではなく、一者構造ともいえよう。

岡田は臨床心理学の立場から、愚痴には聞き手つまりカウンセラーの存在を必要とし、愚痴を成立させるための話し手-聞き手の親密性について述べていた。今回の研究では、聞き手や親密性がなくとも愚痴は行われていることを示した。カウンセリングという特殊な場面で行われる愚痴とWEB上の愚痴は異なっており、愚痴の概念を広げる必要があるといえる。対面してこぼす愚痴では、相手の表情やしぐさなど反応を見ながら、話し方や内容を変えることができる。WEB上ではどうなのか、今後、WEBコミュニケーションの特殊性を解明する必要がある。

防御措置については、普通の会話における文の構成要素の欠落のデータを見つけることができなかった。そのため、愚痴の文の構成要素の欠落の割合を、普通の会話での欠落と比較することができなかった。愚痴の防御措置をより正確に検証するためには、普通の会話における文の構成要素の欠落を明らかにする必要がある。

現代は愚痴がデータとして残る時代である。愚痴に関する研究は、新たな観点から行うことができると考えられる。

## 引用文献

- 西尾 実・岩淵 悦太郎・水谷 静夫編. 2011. 岩波国語辞典（第七版新版）
- Bakhtin M.M. 佐々木寛. 1988. 「ことばのジャンル」『ことば 対話 テキスト』新時代社, 113-189
- 野中進. 2001. 「愚痴について－バフチンの「ことばのジャンル」論より」『埼玉大学紀要』33 巻, 第 2 号, 61-79.
- 野中進. 2007. 「愚痴と文学」『文字の都市：世界の文学・文化の現在 10 講』東京大学出版会, 63-84.
- 岡田卓也. 2004. 「愚痴に関する一考察－その精神力動と関係性－」『臨床心理学研究』第 2 巻, 47-63

## 引用 web ページ

mixi

<http://mixi.jp/> 2013 年 10 月 6 日閲覧

Twitter

<https://twitter.com/> 2013 年 10 月 6 日閲覧